

第4回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

◇日 時 2025 年 12 月 20 日（土）10：00～12：00

◇場 所 県立万葉文化館

◇参加者 【学生】勝田

【万葉文化館】井上、中本、榎戸

【大学教員】加藤、米田、河野、大西 計 8 名

◇内 容 授業構想の検討、卒論中間報告

1) 授業構想「魅力発見！万葉集 ―万葉カルタをつくろう―」 勝田南美（国語科教育専修 3 回生）



小学校 6 年国語科（総合） 国語科だけだと 8 時間程度で
総合を入れたら 1 5 時間程度

百人一首などを用いた和歌の学習を経験している

→ 万葉集について基本的なことを知る

→ 万葉集をモチーフにした現代の作品について知る（「令和」、「君の名は」、「言の葉の庭」など）

「なぜ万葉集は今でも親しまれているのだろうか？」

万葉集の魅力について探る活動

→ どうすれば万葉集の魅力を伝えたり、親しんだりしてもらうことができるだろう？

カルタづくり（万葉カルタ） 百人一首のような形にしたい

どんな歌を選んだらよいか？ 百枚は数が多いかも

万葉カルタ大会・・・下級生と、地域の方たちと

解説書の作成・・・現代語訳、歌の意味、作者や背景、評価ポイント、歌に沿ったイラストや写真

意見交流から

・いろんな活動が盛り込まれすぎでは。もっとスリム化していいと思う。

まず、この学習のいちばんの目標（ねらい）が何かを明確にしたい。

・小倉百人一首の成立は 13 世紀、カルタになってきたのは江戸時代。

・そもそも「親しむ」とはどういう状態？

身近な地名が入っているとその歌がぐっと近づいてくる。

植物や虫、花、動物などが入っている歌なんかも身近に感じられるのでは。

・万葉集の魅力と言われても、小学生ではなかなか感じることは難しいのではないかな。

・きれいな「五七五七七」になっていない歌も多い。長歌もある。身分などにとらわれることなく様々な人の歌があるのも万葉集の魅力だと感じてほしい。

・先にカルタづくりをしてはどうだろうか。いろんな種類の歌を取り上げて。

リズム重視なら東歌、早口言葉の歌や双六の目を詠んだ歌など。

→ 百人一首とは違って、いろんな歌（おもしろいもの、身分の低い人のものなど）があることを気付いてくれるといいのでは。



2) 卒業論文中間報告

「万葉集を教材とした国語科授業実践についての研究 ―ESD の理念に照らして―」

田中愛花（国語科教育専修 4 回生）

第 1 章 万葉集の ESD 的価値

万葉集が内包する ESD 的価値観

万葉集と ESD が結びつくと考えられるのは、^①歌を選定した大伴家持をはじめとする貴族が広く庶民の歌も歌集の中に取り入れようとした点、空や山、水の音といった自然や自然と人との関わりを歌ったものが少なくない点、^②防人の歌の中に戦争によって家族と離れたくないことを歌ったもの等がある点である。これらは、ESD の視点(見方・考え方)の「多様性」、育てたい ESD の価値観の「自然環境・生態系の保全を重視する」「人権・文化・平和を尊重できる」の項目にそれぞれ該当する。

だが、^③防人の歌の中でも天皇への忠誠心を歌ったものもあることから、「人権・文化・平和を尊重できる」の項目に都合の良い歌だけを当てはめているだけだという批判の声も予想される。^④そこで防人の歌 98 首 3 を「妻・恋人を思う」「両親を思う」「子を思う」「防人を思う」「望郷」「悲哀」「忠君」「奮起」「批判」「その他」の項目で分類して、防人の歌の内容を分析し、防人の歌に含まれる主流の考えとその流れが ESD の価値観や考え方に即しているか追っていく。

①広く庶民の歌も歌集の中に取り入れようとしたかどうかは疑義が呈されている。

論者によって捉え方は異なるが、いずれにしても現代の我々が想像するようないわゆる「庶民」の歌は入っていないというのが現代の通説。

②防人は、戦争はしていない。防御が主たる任務。

③「防人歌と戦争下におけるその受容」（2022 小川靖彦）を参照されるといい。

④分類の仕方が間違っているとは言えないが、なぜそういう分類にしたのかという筆者の意図について説明があるのがいいと思う。誰かの分類を引用できればいちばんよいが。

万葉集を教材とした学習指導の変遷

時代	万葉集から読まれる内容
戦前	・万葉集は日本人の純朴な精神、忠誠・愛国・自己犠牲の象徴 ・防人の歌は、天皇の命に従って遠く国を離れ、国を守る男たちという構図が、軍国主義的な忠君愛国の理想像と重ねられていた
戦後	・日本民族が万葉集のようにすぐれた文学遺産をもっていることに喜びと誇りを感じさせる ・生徒たちに祖国に対する愛情と民族的自覚をめざめさせることが古典教育の究極の目標 ・万葉集に描かれた自然の姿と自然と人間との関係性や、心をおどらせる 万葉人の幸福感 ・自然と人々が情緒的で密接な関わり方をするのが日本人であるとする。
現代	・万葉集から身近さを読み取らせようとする。 ・身近さ→万葉人の感性と現代人の感性を比べさせるもの。 解釈の揺れが少ない歌を用いて、テキストから自分で身近さを感じさせる方法と、感情が大胆に表現されている歌を用いつつ、時代背景や歌を詠んだ人物にまつわる出来事も理解させながら身近さを感じさせる方法がある。 ・身近さ→地域性のつながりを感じさせるもの。

・「戦前・戦後・現代」という時代区分で果たしているのかどうか。戦前でも「明治・大正、昭和」で大きく違うと思う。

・学習指導要領でも、以前は「関心をもつ」という表現だったものが、「親しむ」に変化している。

この違い

・万葉集の中に ESD の要素を見出そうとする教育者としての立場を明確に打ち出した方がいいと思う。